

2021年12月期 第3四半期

決算説明会

2021年11月12日

日本ホスピスホールディングス株式会社

(証券コード：7061)



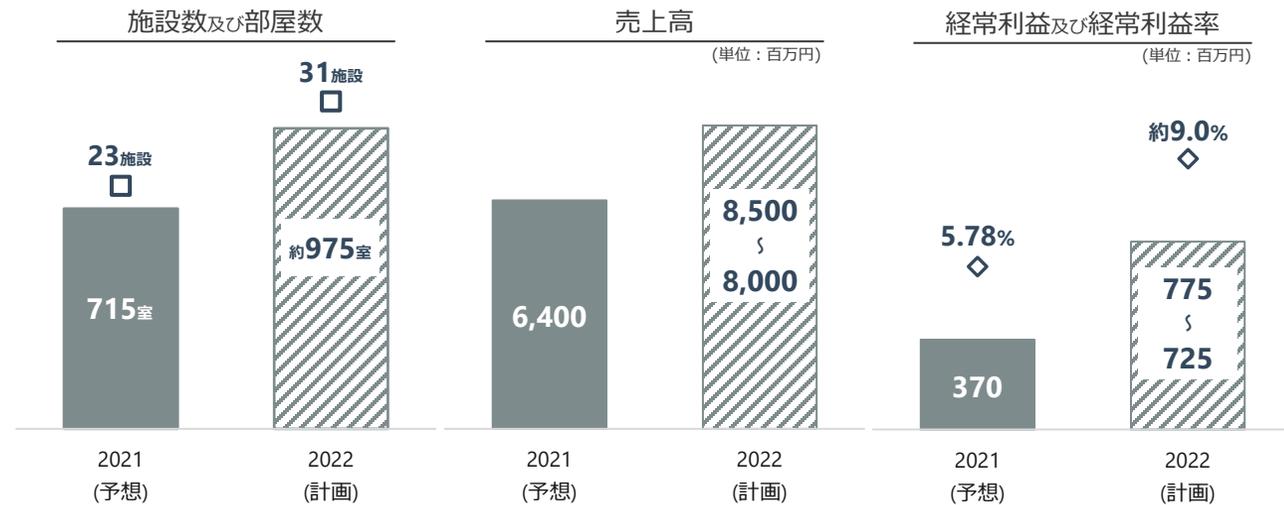
1 2021年3Q（7月～9月）は経常利益率10%

- ・ 昨年コロナ影響を受けた5施設の利益貢献
 - ▶ ファミリー・ホスピス二子玉川ハウス（コロナ影響を受けた5施設のうち、1Q時点で未だ満床に至っていなかった唯一の施設）が2021年6月末で満床に到達し、5施設すべてが満床時利益による貢献期間に入った
- ・ 安定稼働施設の稼働率は高水準で維持
- ・ 立ち上げ過程及び新規開設した2施設が3Qより黒字化
 - ▶ 昨年12月にオープンしたOASIS藤が丘、今年3月にオープンしたファミリー・ホスピス大口ハウスが3Qより黒字化

3 離職率の低下

- ・ 注力してきた教育研修&ホスピスチーム作りの効果が現れる
 - ▶ 2Qの離職率が前年同期比で約2割低下
例年、看護師等の流動性が高まる春に採用を集中させるが、離職率が想定より低下したため、一時的に人員が余剰（その後の採用抑制により7月末に余剰状態は解消）
 - ▶ 今後、離職分を補うための採用費が減少する見込

2 2022年12月期計画の見直し ※確実に開設が見込める施設数を前提 また、施設買収等による開設も除く



4 関西への進出

- ・ 2021年5月にファミリー・ホスピス京都北山ハウスを開設
 - ▶ 稼働率向上（=民間ホスピスの認知度向上）に時間を要する状況は、2Qに続き3Qも大きな変化はなし
- ・ 2021年6月にファミリー・ホスピス神戸垂水ハウスを開設
 - ▶ 7月開設予定を6月に前倒し、稼働率は順調に推移

1. 2021年12月期第3四半期決算概要

(単位：百万円)

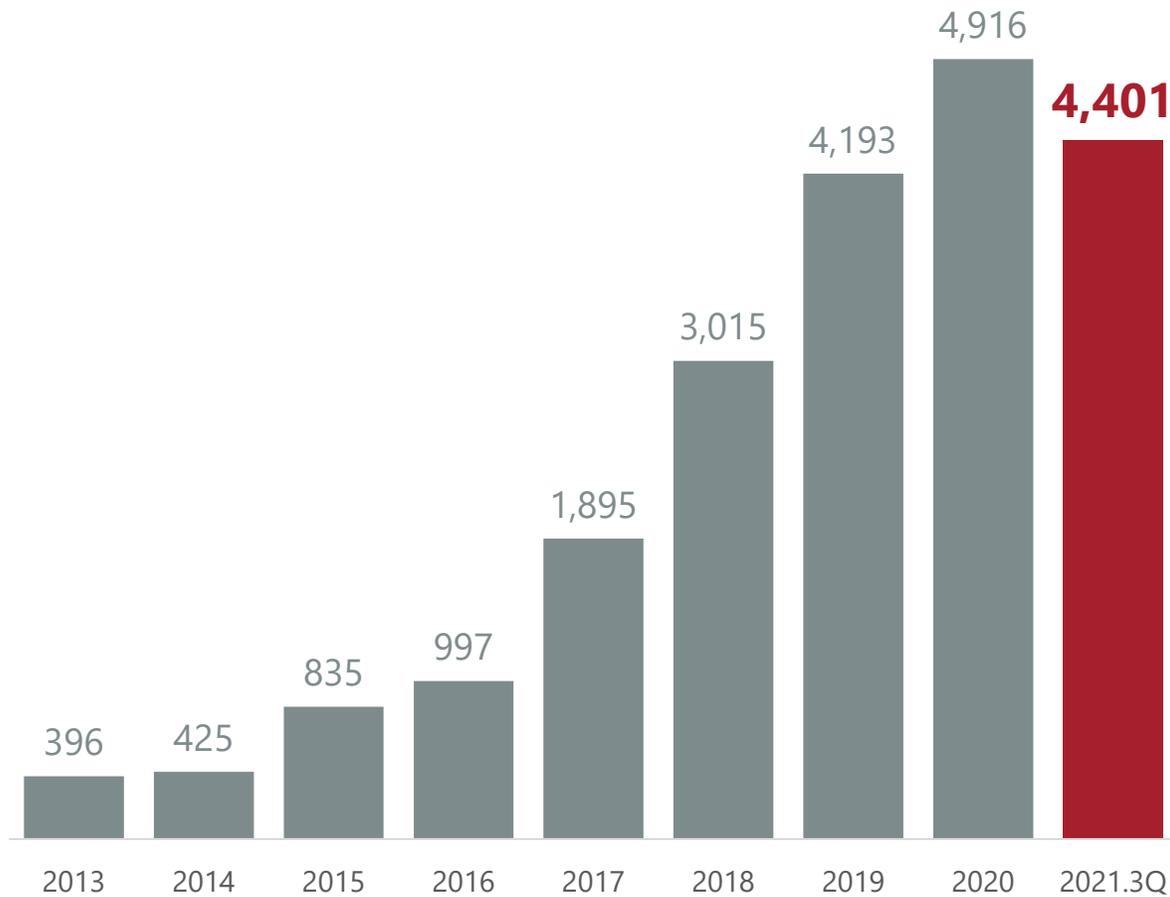
	2019年12月期 第3四半期実績	2020年12月期 第3四半期実績	2021年12月期 第3四半期実績	対前年同期 増減額 (百万円)	対前年同期 増減率 (%)
売上高	3,052	3,588	4,401	+813	+22.7
営業利益	341	223	400	+176	+79.1
経常利益	255	112	280	+168	+149.5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	196	61	164	+102	+165.2
1株当たり 四半期純利益 (円)	26.74	7.89	20.67	—	—

※百万円未満を切り捨てて表示しています。

	影響額 (百万円)	解 説
2020年12月期 第3四半期 経常利益	112	
① 2020年3Q時点で、既に安定稼働に至っていた施設の「貢献利益差額」	+43	昨年 (= 2020年3Q) 時点で既に安定稼働となっていた11ハウス ※貢献利益差額・・・2020年3Q vs 2021年3Q
② 2020年3Q時点で、立上げ過程にあった施設の「貢献利益差額」	+258	池上ハウス、二子玉川ハウス、茅ヶ崎ハウス、鴨宮ハウス式番館、江田ハウスの5ハウス ※貢献利益差額・・・2020年3Q vs 2021年3Q
③ 2021年に、立上げ過程にある又は開設した施設の「開設準備コスト&運営赤字額」	▲86	OASIS藤が丘、大口ハウス、京都北山ハウス、神戸垂水ハウスの4ハウス ※OASIS藤が丘、大口ハウスは2021年3Qから利益貢献期に入った
④ 2021年4Q以降開設ハウスの開設準備コスト	▲29	・2021年に開設する施設の開設準備コスト ・2022年に開設時期を送った施設で、既に採用済みの人件費等
⑤ 本社・本部人件費の増加額	▲46	・ホールディングス及び事業子会社本部の人件費の増加 (計画範囲内) ・離職率の低下に伴う、4月～7月の余剰人員コスト (計画範囲外)
⑥ 採用費の減少額	+23	離職率の低下により採用費が減額 (計画範囲外)
⑦ その他	+5	
2021年12月期 第3四半期 経常利益	280	

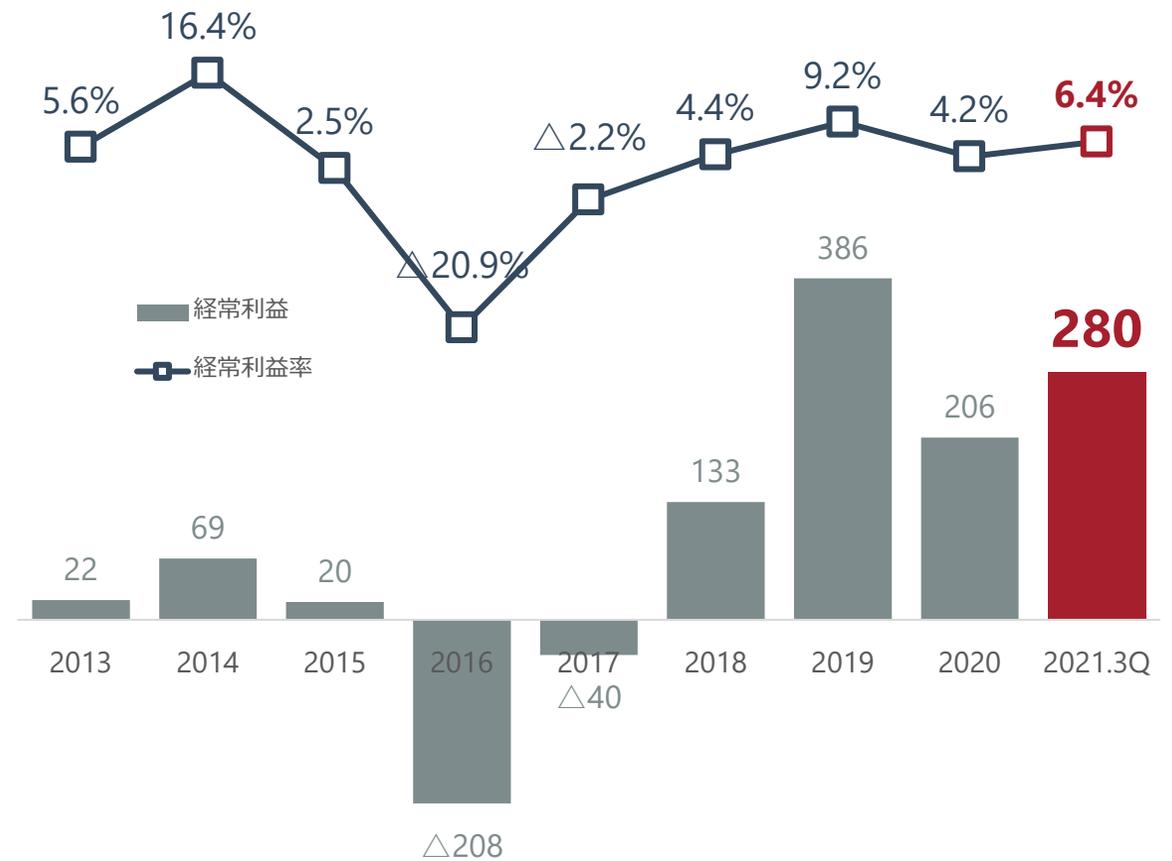
売上高の推移

(単位：百万円)

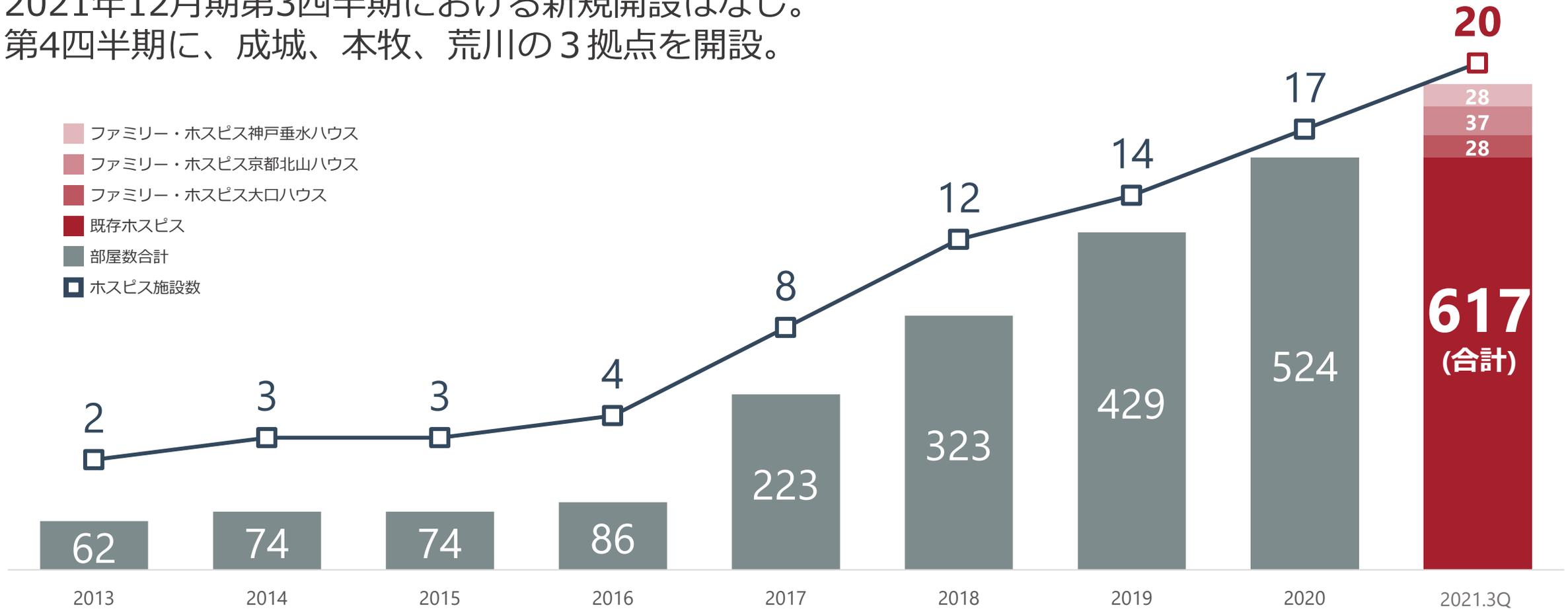


経常利益・経常利益率の推移

(単位：百万円)



■ 2021年12月期第3四半期における新規開設はなし。
第4四半期に、成城、本牧、荒川の3拠点を開設。



【平均入居率の推移】

既存ホスピス住宅:	86.7%	88.1%	86.8%	85.7%	86.6%
新規ホスピス住宅:	65.9%	61.6%	59.6%	55.7%	47.9%

※ 平均入居率 = 延べ入居室数 ÷ (提供可能室数 × 日数)

※ 既存ホスピス住宅・・・前期までに開設したホスピス住宅

新規ホスピス住宅・・・当期に開設したホスピス住宅

バランスシート状況

(百万円)	2020年12月期	2021年12月期 第3四半期	増減額	増減の主な理由
流動資産	1,824	1,926	+101	
現預金等	959	876	▲82	
売掛金	775	942	+167	
固定資産	4,471	6,056	+1,584	建物、リース資産の取得による増加
資産合計	6,296	7,982	+1,686	
流動負債	1,050	1,874	+823	
未払費用	308	289	▲19	
固定負債	3,986	4,661	+674	借入実行及びリース資産の取得による増加
負債合計	5,037	6,535	+1,498	
純資産	1,259	1,447	+188	
負債・純資産合計	6,296	7,982	+1,686	
自己資本比率	19.9%	18.0%	-	

※百万円未満を切り捨てて表示しています。

ホスピス住宅の新規開設スケジュール

年度	名称	所在地	2020年12月期				2021年12月期			
			1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
2019年	ファミリー・ホスピス二子玉川ハウス	東京都世田谷区								
	部屋数合計		429室 (実績)							
2020年	ファミリー・ホスピス茅ヶ崎ハウス	神奈川県茅ヶ崎市	24室							
	ファミリー・ホスピス鴨宮ハウス弐番館	神奈川県小田原市		12室						
	ファミリー・ホスピス江田ハウス	横浜市青葉区			23室					
	ナーシングホームOASIS藤が丘	名古屋市名東区				36室				
	部屋数合計		524室 (実績)							
2021年	ファミリー・ホスピス大口ハウス	横浜市神奈川区					28室			
	ファミリー・ホスピス京都北山ハウス	京都市北区						37室		
	ファミリー・ホスピス神戸垂水ハウス	神戸市垂水区						28室		
	ファミリー・ホスピス成城ハウス	東京都世田谷区								30室
	ファミリー・ホスピス本牧ハウス	横浜市中区								36室
	ファミリー・ホスピス荒川ハウス	東京都荒川区								32室
部屋数合計		715室 (予定)								

2. 中期経営方針

ミッション

在宅ホスピスの研究と普及

理念

増加する看取り難民を解消するため在宅ホスピスを推進

ホスピス人材育成・チーム作り

社会課題解決型 = ESG企業

長寿で得られた時間をどう生きるか、その行く末の「死」とどう向き合えば良いのか。医療技術の進歩により実現した長寿によって得られた時間を豊かに過ごせる「笑顔」溢れる社会を目指し、そのために在宅ホスピスの研究と普及を行います。

企業理念を実現するために、ESG企業として事業を展開することが、結果としてSDGsの目標達成につながると考えています。

※ESG：環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



日本ホスピスホールディングスグループは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

ホスピスの普及・地域ネットワークへの貢献

1 ホスピスの研究と普及



● ホスピスケア品質向上のため、様々な形態（居室数・厨房の在り方等）に挑戦します

- ▶ ・施設ホーム長を中心とした安心できるホスピスの実現
- ▶ ・利用者を第一に考えた生活の質（食と住）へのこだわり
- ▶ ・きめ細かいケアサービスの提供を可能とする30室前後の居室数
- ▶ ・ホスピスチーム作りによる施設の全国展開
- ▶ ・外部機関との共同研究によるホスピスケア品質の向上（ex 横浜市大との共同研究の実施）

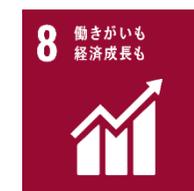
2 地域医療ネットワークへの貢献



● 複合型サービスの提供により、地域医療ネットワークへ貢献します

- ▶ ・看護小規模多機能型居宅介護の併設
- ▶ ・ご自宅への訪問看護サービスの提供

3 ホスピス人材の育成と女性の活躍



● 教育研修の充実により、ホスピス人材の育成とチーム作りを推進します

- ▶ 専門看護師・認定看護師がグループに数十名在籍
 - ・看護師全体の中で、専門看護師はわずか0.1% (約2,000名)、認定看護師は約1% (約20,000名)
- ▶ 緩和ケアを提供する看護師に必須とされる能力修得のための、看護師教育プログラム等を実施
 - ・当社看護師が、看護師 (社内外問わず) を対象に、講師やファシリテーターとして開催 (ex ELNEC-J、ホスピスコミュニティ)
- ▶ 緩和ケアを代表する看護師が経営に参画

梅田 恵 (ファミリー・ホスピス(株) 執行役員副社長 品質管理責任者)

がん看護専門看護師 (2000年認定)。淀川キリスト教病院及び昭和大学病院にて緩和ケアに従事した後、昭和大学大学院保健医療学研究科の教授を経て、2019年4月より当社グループの執行役員として参画。

田村 恵子 (社外取締役)

淀川キリスト教病院にて、緩和ケアに従事した後、京都大学大学院医学研究科の教授に就任 (現任)。緩和ケアにおける看護師の第一人者として、ホスピスケアの普及のため、2020年4月より当社グループの社外取締役として経営に参画。

● 女性が活躍できる環境を整備し、女性管理職の割合を増やします

- ▶ 新たなやりがいの場を提供し、看護師の多様な働き方を実現



会社概要

- 社名 : 日本ホスピスホールディングス株式会社
本店所在地 : 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル2F
代表者 : 代表取締役 高橋 正
資本金 : 355百万円（2021年9月末日時点）
グループ会社 : ファミリー・ホスピス株式会社（東京都千代田区）

事業内容

ホスピス住宅事業



入居者を**末期がん患者**や**難病患者**等に限定したホスピス住宅にてケアサービスを提供しております。訪問看護と訪問介護事業所を併設又は近設しております。

訪問看護事業



看護師による訪問看護サービスを提供しています。在宅医と協力して、利用者やその家族の希望に沿い、安心して「おうち」で暮らし続けられる支援をしています。

在宅介護事業



訪問看護と併設することで医療的ケアに対応し、「通い」「泊り」「訪問」の3つのサービスを組み合わせた包括的なケアを特長とするサービスを提供しております。



住みなれた街
住みなれた家

大事な人と
親しい人たちと
そして、一人でも

全ての人が
人生の最期の時まで
安心して、楽しく
暮らせる社会

「街がホスピスになる」

当社の描く未来です

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本資料作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

<お問い合わせ先>
日本ホスピスホールディングス株式会社

電話 : 03-6368-4154

メール : ir@jhospice.co.jp